


しゃけうじやまいせき	
社家宇治山遺跡	
(海老名市No.76 遺跡)	
所在地	海老名市社家
時代	弥生時代後期 V 古墳時代前期 古代 中・近世



調査概要

社家宇治山遺跡は、さがみ縦貫道路（じゅうかんどうろ）海老名北（えびなきた）ジャンクション建設にともない、中日本高速道路株式会社（旧日本道路公団）より委託を受けて、平成15年3月より発掘調査を行っています。

遺跡は海老名市の南西部、JR相模線社家駅の北西約0.3kmに位置し、相模川（さがみがわ）中流（ちゅうりゅう）の左岸に形成された自然堤防（しぜんていぼう）上に立置しています。遺跡の東側には後背湿地（こうはいしち）である沖積低地（ちゅうせきていち）が広がっています。

【弥生時代後期～古墳時代前期】

方形周溝墓（ほうけいしゅうこうぼ）、掘立柱建物址、竪穴住居址、溝状遺構（みぞじょういこう）、土坑（どこう）等が発見されました。方形周溝墓は、遺跡全体で50基以上が発見されています。低地（ていち）での周溝墓群の発見は、県内でも珍しい事例です。その他には、100軒近い竪穴住居址が発見されています。その中の3軒からは管玉（くだたま）の製作工房跡（せいさくこうぼうあと）が確認できました。工房の中からは、管玉の未製品（みせいひん）や製作過程（せい



▲古墳時代前期 方形周溝墓全景



いさくかてい)で廃棄(はいき)された玉の破片が多数出土しました。玉造(たまつく)り工房の発見された遺跡は県内で数例しか報告(ほうこく)されておらず、貴重な成果といえます。

【古代】

8世紀から9世紀頃と考えられる竪穴住居址(たてあなじゅうきよし)、はたけ、溝が発見されました。土師器(はじき)の坏(つき)や甕(かめ)、須恵器(すえき)の甕や瓶(へい)等が出土しています。

特に、遺跡の東側では、8世紀～10世紀にかけて何度か補修(ほしゅう)を繰り返して使用されていた、道状遺構(みちじょういこう)が発見されました。

【中・近世】

戦国時代(せんごくじだい)から江戸時代(えどじだい)の堀(ほり)に囲まれた屋敷地(やしきち)が発見されました。屋敷内からは、掘立柱建物址(ほったてばしらたても)のほか、溝(みぞ)や井戸(いど)などの付属施設(ふぞくしせつ)が発見されています。また、これらの遺構(いこう)内からは、中国産(ちゅうごくさん)の染付磁器(そめつけじき)や青磁碗(せいじわん)、瀬戸(せと)や肥前(ひぜん)で焼かれた陶磁器(とうじき)、漆器椀(しっきわん)、下駄(げた)など生活に密着(みっちゃく)した遺物が多数出土しています。